

# 中国 KJ-500 型 AWACS の生産状況

漢和防務評論 20151030 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は、早期警戒管制機分野でも西側に比べ遅れているとはいえ、着実に進歩しているようです。しかもパキスタンに4機輸出 (KJ-500 のスペックダウン型) しています。

中国空軍のネットワーク戦争能力はどの程度か不明ですが、ハード面では西側に着実に追いついてきているようです。習近平の西側に対する傲慢ともいえる姿勢は、軍の近代化が円滑に進んでいるからかもしれません。

KDR 平可夫特電：

2015 年に入って、KJ-500 型 AWACS の量産が開始された。一方 KJ-200 を生産している形跡がない。このことは、中国の海・空軍が、今後主として KJ-500 を使用することを示している。2015 年 3 月、中国空軍向けに塗装された KJ-500 が 1 機飛行しているのが発見された。同年 6 月に、漢中航空機会社は、少なくとも 2 機の KJ-500 を組み立てた。同年 5 月には、西安で 1 機の KJ-500 が発見された。したがって現在生産された KJ-500 は少なくとも 3 機あると推測され、KJ-500 は少量生産段階に入ったと推測される。

KJ-200 と KJ-500 の大きな違いは何か？ 後者は、データリンク指揮能力が強化され、AWACS の全ての機能が備わった、と KDR は見ている。KJ-200 は厳格に定義すれば早期警戒管制機 (AEW&C) であり、データリンク処理の数に制限があった。しかも採用したのはバランスビーム式アンテナであり、死角が存在した。同じバランスビーム式の SAAB-2000 の探知方位角は 240 度である。これは、多目標探知能力が KJ-200 よりも KJ-500 が優れていることを意味している。このほか KJ-500 は、KJ-200 には発見されていない衛星通信アンテナを有している。後者 (KJ-200) は、戦区級の早期警戒管制機であり、KJ-500 の性格は、KJ-2000 と同様に戦略的に運用される AWACS に属する。

KJ-500 とパキスタンに輸出した ZDK-03 型 AEW&C は、レドーム塗装が異なる。KJ-500 のレドーム塗装は白色の三角形であり、レドーム塗装は随意に変更することは出来ない。内部にはアクティブ・フェーズドアレイ・レーダーが取り付けられている。

ZDK-03 の塗装は白色の四辺形である。KDR がすでに説明したが、パキスタン空軍は経費を節減するために、水平方向はメカニカル・スキャン方式で、俯角はアクティブ・フェーズドアレイ方式のレーダーを採用した。RCS が 2 平方メートルの空中目標に対する探知距離は 300 KM で、同時に 9 個目標を追跡出来る。また艦船捜索能力もある。

KJ-500 は、機種、尾部、左右の翼にもレドームがあり、精確な方位探知能力がある。しかし ZDK-03 には、このようなレドームは無い。また KJ-500 には、飛行の安定を図るため、尾部に 2 つのベンツラル・フィンが取り付けられているが、ZDK-03 にはない。このことは KJ-500 のレーダー重量及び大きさが ZDK-03 に比べて大きく、したがって探知距離は ZDK-03 よりも長いことを示している。

KJ-500 に対する KDR の初歩的な技術評価は次の通り：同じ大きさの空中目標に対する探知距離は、KJ-500 が 400 KM を超える可能性があり、全てフェーズドアレイ方式を採用しているところから、レーダーの追跡能力は ZDK-03 の数倍はあると思われる。

以上のように、同じ Y-9 型輸送機を改造して製造された機体でも AWACS 機と AEW&C 機の違いは明確に分かる。現在全部で 4 機の ZDK-03 がすでにパキスタンに輸出されている。最後の 1 機は 2013 年に輸出された。ネット上に出現した KJ-500 の写真を見ると、少なくとも 1 機は海軍向け塗装である。

しかしある動きが KDR の関心を引いた。第一、ネット上に出現した 1 枚の写真を見ると、レドーム塗装及び機体構造が ZDK-03 と完全に同じ AEW&C 機であった。同機は、”八一”のマークを付け、海軍向け塗装であった。このことは、中国軍が今後、ZDK-03 機の中国版を少数装備することを意味するのであろうか？今年 5 月に、閩良において、試験飛行中の AEW&C 機が 1 機発見された。レドーム塗装は ZDK-03 と同じであった。したがって KDR は、KJ-500 以外にも中国海軍或いは空軍が、今後中国版の ZDK-03 を装備する可能性があると思ふに足る証拠を得た。これは、別の角度から見ると、KJ-500 は相当高価な AWACS 機であり、現在 KJ-2000 と同じ 4 機しか装備していない。KJ-200 の生産が停止しているということは、就役間、中国海・空軍がその性能に満足していなかったということである。

したがって今後、中国版の ZDK-03 と KJ-500 が高、低空域をそれぞれ分担しあう可能性が無いわけではない。

以上